

ワールド10連覇

全国社会人
テニス

戸 11.21
神 205

男子テニスのアマチュア団体日本一を争った第19回全国社会人選手権(神戸新聞社後援)最終日は20日、加西市の青野運動公苑で決勝などを行い、ワールド(関西1位)が

10年連続13度目の優勝を飾った。

8ゲーム1セットマッチの5ポイント制(単2、複3)で争われた。関西勢対決となった決勝は、ワールドがダブルスをすべて勝ち、三菱電機(関西2位)を4-1で下した。3位決定戦は、前年優勝のマンソネ(関東1位)が三菱電機エンジン(関西2位)を4-1で破った。

「原点の大会」で偉業



10連覇を飾り、喜ぶワールドの選手ら

無敵を思わせる10連覇だったが、ワールドの選手たちは、勝利への執着をあらわに戦った。中でも、決勝の伊藤・川瀬ペアには緊張感がみ

なざった。昨年の決勝で譲り負けた苦しい思い出雪辱の機会をくれた湯浅主将の計らいに燃えた。6-3から6-6に追い付かれる展開に「去年を思い出した」というが、ここからが違った。流れを変えようとプレーを変え、川瀬のサーブをエース劉がフェイントで相手をかき乱し、次の

ゲームはリターンゲームで圧力をかけた。失った流れを奪回し、「自分に勝てた」と喜びを爆発させた。

テニス部が正式な部と認められたのは、94年の優勝がきっかけ。森監督は「この大会で育ててもらってきた」としみじみ震災の翌年、連覇をスタートさせた時には、泣いて栄冠を喜んだ。2週間後の日本リーグでは、プロに挑みかかる。決勝トナメントを目指す。エース劉。王者の挑戦は終わらない。(永見将人)